

串本町津波防災地域づくり推進計画の概要

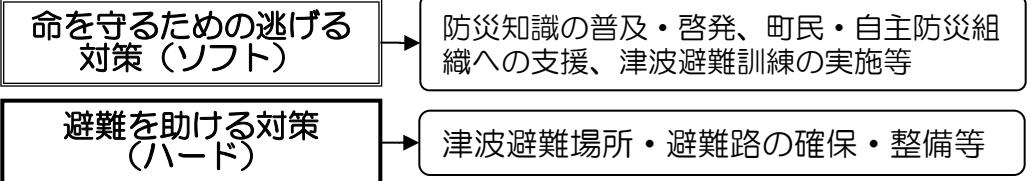
計画策定の目的

- 将来を見据えた集約拠点ネットワーク型のまちづくりの方針を踏まえつつ、紀勢線の整備とも連動した、津波防災地域づくりの総合ビジョンを示します。
- 国・県・関係機関、町庁内各部局、地域が連携しながら将来にわたり取り組むべき、ハード・ソフト施策を組み合わせた津波防災に資する施策体系及び推進手順を具体的に示します。

これまでの津波対策の取組

- 津波被害の歴史を踏まえ、町一丸となって津波対策を継続的に実施してきました。

＜これまでの津波対策の2つの柱と主な対策＞



津波浸水想定状況

- 中央防災会議による南海トラフ巨大地震の浸水想定（H24）⇒全国で最も早い津波到達時間が想定されています。
- 和歌山県が公表した東海・東南海・南海3連動地震及び南海トラフ巨大地震の新たな津波浸水想定（H25）、津波避難困難地域（H26）⇒津波到達時間が極めて短く津波浸水想定区域・津波避難困難地域が広く分布する結果が想定されています。

表 和歌山県による新たな津波浸水想定・津波避難困難地域の抽出結果

津波浸水想定等の状況	東海・東南海・南海3連動地震	南海トラフ巨大地震
最大津波高	10m	17m
津波到達時間	5分	3分
津波浸水面積	750ha	1,170ha
津波避難困難地域面積	26.4ha	185ha

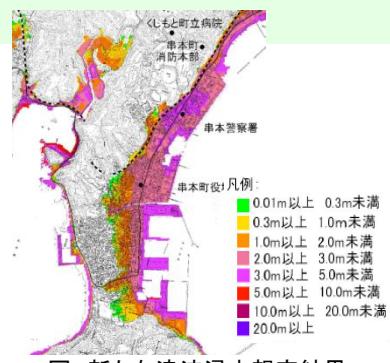


図 新たな津波浸水想定結果（東海・東南海・南海3連動地震）

推進計画の区域

- 推進計画の対象区域は、今後の紀勢線の延伸整備や内陸部を活用した将来的なまちづくりの可能性を考慮して、串本町全域を指定し、西部地域、中部地域、南部地域、東部地域の4つの地域区分を設定します。



図 推進計画の区域と地域区分

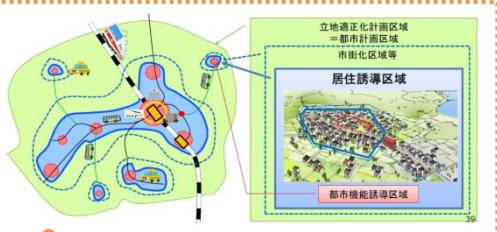
地域の目指すべき姿を踏まえた5つのまちづくりの方針と地域別の主な重点施策

- 長期総合計画、都市計画区域マスタープラン、地域防災計画等の上位関連計画の方針や津波防災地域づくり上の課題、高速道路等の施設整備動向を踏まえ、以下5つの視点からまちづくりに取り組みます。

【長期的なまちづくりへの社会的要請】

- ◆ 都市機能の集約とネットワーク化による持続可能なまちづくりの要請

図 都市計画運用指針の改正により立地適正化計画で設定する「居住誘導区域」のイメージ



【津波防災地域づくり上の課題】

- ◆ 市街地・集落の多くが沿岸部の津波浸水想定区域内に立地している
- ◆ 人口減少及び高齢化やそれに伴う空き家及び老朽家屋等の増加が見込まれる



図 浸水想定区域内に分布する老朽家屋

【高速道路整備と連動した津波防災対策への期待】

- ◆ 紀勢線の整備に伴い数多くの防災対策が高速道路建設とリンクして実施されることが期待される



図 延伸工事が進む紀勢線

↑5つのまちづくりの方針↓

- <方針1> 避難迅速化に向けた情報周知・啓発活動の徹底 ⇒協働まちづくりの推進に併せて、津波から逃げ切るための平時からの津波避難に係る地域への情報周知や啓発活動を徹底する。
- <方針2> 安全かつ円滑な津波避難環境の整備 ⇒生活に必要な道路整備と併せて、安全かつ円滑な津波避難環境を整備し、津波避難困難地域を解消するまちづくりを推進する。
- <方針3> 自助・共助と公助が連携した津波対策の取組継続 ⇒要支援者を含む住民・来訪者等の避難支援環境確保と災害対応力向上を目指した自助・共助と公助が連携した取組を推進する。
- <方針4> 都市の集約化に併せた防災拠点機能強化 ⇒都市機能の集約化に伴う住みやすい都市づくりに併せて、防災拠点の確保と拠点間のネットワーク化により拠点機能強化を図る。
- <方針5> 国・県の施策と連携した津波に強く安全・安心でコンパクトなまちづくり ⇒道路等の都市基盤整備、高台等への都市機能の移転等、津波に強く安全・安心でコンパクトなまちづくりに総合的に取り組む。

↑地域別の主な重点施策↓

- 災害時の拠点間ネットワークの確保（西部地域）

災害時の輸送路となる紀勢線へのアクセス路のイメージ
- 高台における新たな都市基盤の整備（中部地域）

新たな高台造成地のイメージ（サンゴ台）
- 避難生活の拠点となる防災拠点の整備（東部地域）

高台への防災拠点の整備イメージ（上野山防災広場）
- 部隊展開の拠点となる防災拠点の確保（南部地域）

部隊展開の拠点となりうる高台の防災拠点のイメージ（潮岬）